

保健医療協カプロジェクトのあり方

フィリピン熱帯医学研究所

昭和58年7月

国際協力事業団
医療協力部

118
984
HCF

LIBRARY

医協

JR

83-44



17681

JICA LIBRARY



1065963L91

は　じ　め　に

当事業団は、開発途上国に対する保健医療協力事業の一環として、27カ国において34のプロジェクト方式による技術協力事業を行ない（昭和58年7月現在）、保健医療分野における要員養成、技術移転及び地域住民の福祉の向上を図るため関係各位のご指導、ご協力を仰ぎつつ遂行しているところである。

しかしながら、保健医療協力としては、保健医療従事者の教育システム開発、熱帯特有の疾病に関する調査研究、最新の診断治療技術の移転、薬剤、ワクチン等の生産開発、地域住民の公衆衛生対策等協力分野が多岐多様に亘るのみならず、日本とは異なる政治経済的、文化的、宗教的要因、或はまた我が方の専門家確保の困難な状況と相まって、日本の保健医療協力事業を極めて困難なものとしている。

このため、当医療協力部では、協力分野が異なり、協力開始後2乃至3年の実績を有する数種のプロジェクトについて、目的、活動計画、実績等を概略的に俯瞰し、協力目標との整合性、今後の協力計画のあり方、評価のポイント等を考察し、もって当該プロジェクトのみならず、他の同種プロジェクトの運営の一助に資するため、(財)日本国際医療団に本件業務を委託した。

以下は、フィリピン熱帯医学研究所プロジェクトに関するその報告書である。

本報告書の作成に当たり、本プロジェクト関係各位にご協力戴いた趣きのところ、ここに深甚なる謝意を表すると共に、今後共一層のご支援ご指導をお願いする次第である。

国際協力事業団医療協力部

部長　中　澤　幸　一

目 次

1. プロジェクト名	1
2. R/D等署名日	1
3. 協力期間	1
4. 対象国の状態	1
5. プロジェクト実施機関	2
6. 国内協力機関	2
7. 国内委員会	2
8. 事前調査	2
9. 討議議事録(R/D)の内容	6
10. 協力年次実施計画表	9~10
11. 協力実績一覧表	11
12. 活動目標	11
13. 活動内容	11
14. 今後の対策	12
15. 評価ポイント	13
16. 討議議事録(R/D)英文	14

別添1. フィリピン保健省組織図

フィリピン熱帯医学研究所

1. プロジェクト名

フィリピン熱帯医学研究所

2. R/D等署名日

1980年10月17日

3. 協力期間

1980年10月17日～1985年10月16日(5ヶ年計画)

4. 対象国の状態

(1) 位 置 : アジア大陸の東南, マレー諸島の東北に位置し, その東西南北を各々太平洋, 南シナ海, セレベス海及びバレー海峡に囲まれた約7,000の多島国である。

(2) 面 積 : 30万平方キロメートル
わが国の本州と北海道を併せた面積に近い。

(3) 人 口 : 4,840万人(1980年)
人口密度 160人(1平方キロメートル)

(4) G N P : 710 U.S.ドル(1982年)
(1人当たり)

5. プロジェクト実施機関

フィリピン共和国保健省, 熱帯医学研究所

責任者 : Dr. ALBERTO G. ROMUALDEZ, JR

Director, Research Institute for Tropical Medicine

住所 : ALABANG, MUNTIN LUPA, METRO MANILA

6. 国内協力機関

- (1) 琉球大学(小張一峰) Tel 0988-87-0101
- (2) 九州大学(合屋長英) Tel 092-641-1151
- (3) 国立予防衛生研究所(林滋生) Tel 03-444-2181
- (4) 都立衛生研究所(大橋誠) Tel 03-964-1131
- (5) 文部省(企画連絡課) Tel 03-581-4211
- (6) 厚生省(国際課) Tel 03-503-1711

7. 国内委員会

委員長 小張一峰 (琉球大学)
委員 合屋長英 (九州大学)
委員 林滋生 (国立予防衛生研究所)
委員 大橋誠 (都立衛生研究所)

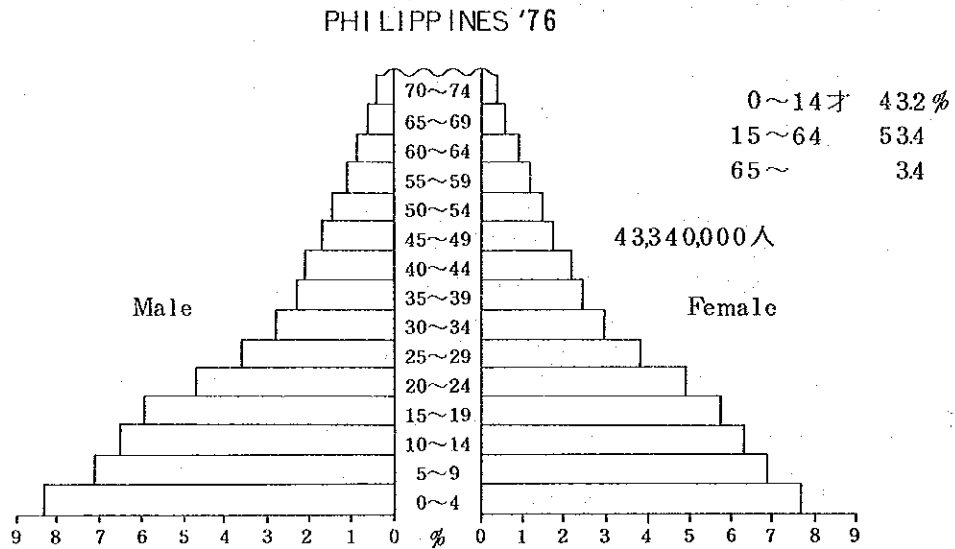
8. 事前調査

(1) プロジェクト対象国の現状

1) 一般事情

① 気候 : 熱帯性

② 年 令 構 成 : 1972年現在



③ 人 口 分 布 : 農 村 60%

④ 人 種 : マレー系 ネグリート系

⑤ 公 用 語 : 英 語, スペイン語, タガログ語

⑥ 宗 教 : キリスト教 93%, イスラム教 5%

⑦ 文 盲 率 : 28%

⑧ 治 安 : 比較的良好

⑨ 通 貨 : ペ ソ (1ペソ=30円)

2) 保健医療事情

① 出 生 率 : 30.0 (人口千対)

② 粗 死 亡 率 : 7.0 (人口千対)

③ 主 要 死 因 : 肺炎 15.3%, 肺結核 10%, 胃腸炎 5.8%

④ 乳児死亡率：58.7（出生千対）

⑤ 妊産婦死亡率：1.6（出生千対）

⑥ 平均寿命：60才

⑦ 傷病状況：

主要傷病 — 呼吸器及び消化器伝染病，栄養失調

⑧ 保健医療施設：病院 1,600（病床 72,000），保健所 87（病床 1,206）

地域保健単位 1,928

⑨ 保健医療従事者：医師 15.4（人口 10万対）

歯科医師 2.0（ ” ）

薬剤師 1.0（ ” ）

助産婦 19.8（ ” ）

看護婦 20.1（ ” ）

⑩ 環境衛生：安全な飲料水 39%

⑪ 保健医療従事者養成施設：医科大学，歯科大学，看護学校

⑫ 研究所：

3) 行政組織

中央政府 — 地域（11） — 州（67） — 市・町

地域人口 170万～800万人

州 60万人

衛生行政組織

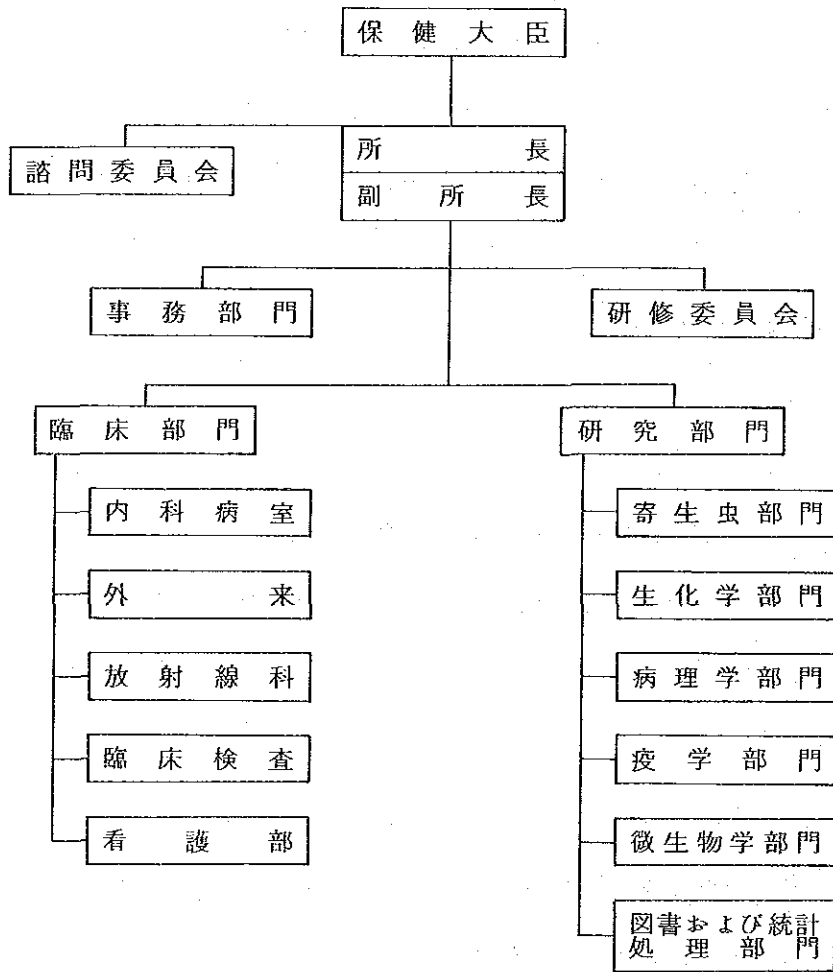
保健省 — 地域衛生部 — 州衛生部

保健組織図（別添1）

(2) プロジェクト対象機関の現状

1) 名称：熱帯医学研究所

2) 組織図：



3) 人 員 : 総 人 員 289 名 (1983 年 7 月 現 在)

事務部門 : 101

臨床部門 : 104 (医 師 7, X 線 技 師 3, 看 護 婦 55,

コンサルタント 12)

研究部門 : 84

4) 予 算 : 794 万 ペソ (1982 年)

5) 主 な 供 与 機 材 : 臨 床 検 査 器 具, 電 子 顕 微 鏡, 超 速 心 分 離 器,

オート・クレーブ

9. 討 議 議 事 録 (R / D) の 内 容

(1) 署 名 者

J I C A 側 実 施 協 議 チ ー ム 団 長 金 子 義 徳

フィリピン側 フィリピン共和国保健省 次官補 Antonio N.Acosta

熱帯医学研究所 所 長 Alberto Romualdez, Jr

(2) 基 本 計 画 (マ ス タ ー プ ラ ン)

1) 目 的 :

主要な熱帯病に対する応用範囲の広い予防対策の開発に資すること。

この目的を達成すべく、フィリピン共和国及び他の同様な状況にある

国々における主要な熱帯病蔓延に関する研究活動を支援するとともに、

研究活動に関連する人的資源の開発及びその研究成果の応用を行う。

2) 活 動 :

① 伝染病の疫学, 微生物学, 免疫学及び予防対策

- ・ジフテリア, 百日咳, 破傷風の免疫, 微生物学, 疫学及びその他
- ・下痢性疾患の微生物学, 宿主と環境因子, 治療法及びその他
- ・相互に合意したその他の分野

② 伝染病対策に携わるヘルス・ワーカーの訓練

(3) 日本人専門家

公衆衛生の専門家	微生物学の専門家
疫学の専門家	寄生虫学の専門家
生化学の専門家	病理学の専門家
臨床医学の専門家	生物医学工学の専門家
実験動物の専門家	相互に必要と認められたその他の関連分野

(4) フィリピン側スタッフ

1) 熱帯医学研究所所長

2) 研究者

公衆衛生, 微生物学, 疫学, 寄生虫学, 生化学及び病理学の各分野
の研究者

3) 臨床家

4) 技術者

検査業務, 施設維持, その他の技術者

5) 事務部門職員

秘書, 事務員, タイピスト, 運転手, メッセンジャー・ボーイ, 守衛,
その他の職員

(5) 機材供与

相互の合意によるプロジェクトに必要な機械, 設備及びその他

(6) 土地, 建物及び施設

プロジェクトへの充分なる土地, 建物及び施設

10. 協力年次実施計画表

	1978年度	1980年度	1981年度	1982年度	1983年度	1984年度	1985年度
調査団派遣	事前調査 11/28 ←→ 12/12 (1) 金子 義徳(総括) (2) 堀田 進(微生物) (3) 松井 清治(公衆衛生) (4) 佐藤 修(JICA)	実施協議 10/11 ←→ 10/18 (1) 金子 義徳(総括) (2) 武谷 健二(微生物) (3) 松井 清治(公衆衛生) (4) 伊藤 雅治(JICA)		計画打合せ 7/19 ←→ 7/24 (1) 小針 一峰(総括) (2) 合屋 長英(臨床) (3) 金子 義徳(公衆衛生) (4) 西村 俊雄(外務省) (5) 平良 専純(JICA)			
専門家派遣			(1) 金子 義徳 6/8 ←→ 10/7 (2) 布上 薫(細菌) 2/26 ←→ 3/25	(1) 小塚 芳道(電頭) 5/25 (2) 山岡 邦夫(微生物) 7/1 (3) 金子 義徳(総括) 10/1 ←→ 11/30 (4) 安藤田英樹(小児科) 3/16 工藤泰雄(都衛研) 7/26 ←→ 8/24	(1) 金子 義徳(総括) 5/16 5/24 6/30 3/15 5/15		
研修員受入			(1) DR. A. G. ROMUALDEZ 3/2 ←→ 3/8 (熱 所長) (2) DR. T. MARAMBA 3/2 ←→ 3/8 (大臣技術顧問) (3) DR. N. C. GONZAGA 10/15 ←→ 12/9 (電頭科長)	(1) DR. A. M. BACCAY 8/17 ←→ 9/26 (熱研病理室長) (2) DR. A. M. GALON 9/4 ←→ 11/7 (熱研副所長, 準高) (3) MISS. C. TORRES 12/2 ←→ 12/13 (熱研, 微生物部)			
機材供与			¥3,406,300円 ¥7,944,400円 (1)超低温槽 (1)ワゴン, ハマ4台 (2)冷却遠心機 (2)超遠心機 (3)分光光度計 (3)走査電頭 (4)CO ₂ 培養機 (4)顕微鏡(3種) (5)コールドトーム他 (5)マイクロトーム(2種) (6)消耗品52点 (6)写真装置 (7)試薬16点 (7)マイクログラフプレート	¥17,000千円 ¥31,000千円 (1)顕微鏡2種 (1)ファイバースコープ4種 (2)純水製造機 (2)外科用呼吸器 (3)電気泳動装置 (3)酸素テント (4)天秤 (4)心電計 (5)小腸生検器 (5)ネブライザー (6)人工呼吸器 (6)マイクロトーム (7)薬品他 (7)薬品他	約40,000千円		

11. 協力実績一覧表

年 度	55	56	57	合 計	58	59	60
長 期	0	0	3	3			
短 期	2	2	1	5			
研修員		3	3	6			
機 材	0	34	119	153			
L・C							

(注) 専門家研修員は延人員、機材は金額で単位百万円。

12. 活 動 目 標

予防可能疾患（WHOが定義している例えば、ジフテリア、百日咳、破傷風）下痢疾患、寄生虫疾患の発生の減少をはかる。

13. 活 動 内 容

(1) 研 究 活 動

1) 呼吸器疾患

熱帯医学研究所所在のアラバンの地域を中心に、①呼吸器疾患と経済状態の関連を調べる疫学調査、②各種ワクチン接種状況の実態把握調査、又研究所の職員を中心に細菌分離・同定技術の指導を行っている。

2) 寄生虫疾患

日本住血吸虫症の問題は、フィリピンにとって非常に重大な問題である。

この研究所では、住血吸虫のライフサイクルに関する実験が行われているが、これに対する日本側の指導は、まだ実施されていない。

3) 病理学部門

日本から電子顕微鏡の専門家が派遣され、電子顕微鏡の使用技術に重点を置いて基本的技術を含んだ技術指導を行っている。

(2) 臨床医学活動

研究のための臨床部門及び近隣地域住民へのメリットという観点から、50床の病院が設立された。その運営は、まだ円滑とは言えないが、時間の経過と共に解決されるだろう。

14. 今後の対策

(1) 専門家派遣

チームリーダーも着任し、長期専門家もリーダーを含めて4人となり、質・量とも充実されつつある。今後は、もっと細分化された領域（肝炎、寄生虫（住血吸虫）、免疫など）の専門家を派遣する必要がある。

(2) 研修生の受け入れ

研修生に技術を身に付けさせるためには、数ヶ月の期間では短く原則として、1年間1ヶ所で研修させることが必要である。

(3) 住血吸虫のライフサイクルに関する研究の分野でも、日本側専門家による指導を行っていくことが必要である。

(4) 機材供与

現在の方針で十分である。これまでに供与した機材で十分であると思われる。

(5) 研究所の建物

動物舎が研究所の中に作られているが、小さな面積、衛生、悪臭などの点で研究所とは別個に大きな動物舎を作る必要がある。

(6) 研究所の付属病院

現時点では、付属病院とフィリピン側病院との間で、外来・入院患者の紹介、転院等は、実施されておらず、両者の関係は十分とは言えないので、研究所の付属病院であるという特徴を活用し、フィリピン側病院の診断技術向上に協力するなどという方法を通じて、関係をはがっていく必要がある。

15. 評価ポイント

- (1) 疫学調査の結果はどうなったか。
- (2) 病床の利用率はどう変わったか。
- (3) 菌・ウイルスの同定技術が移転されたか。
- (4) 電子顕微鏡が独自に操作出来るようになったか。

16. Record of Discussions (討議議事録)

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE
IMPLEMENTATION SURVEY TEAM AND THE AUTHORITIES
CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF
THE PHILIPPINES ON THE JAPANESE TECHNICAL COOP-
ERATION PROJECT FOR THE INSTITUTE FOR TROPICAL
MEDICINE

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) and headed by Dr. Yoshinori Kaneko, Professor of Public Health, Toho University, School of Medicine, visited the Republic of the Philippines from October 11, 1980 to October 18, 1980 for the purpose of working out the details of the Technical Cooperation Project for the Institute for Tropical Medicine in the Republic of the Philippines.


During its stay in the Republic of the Philippines, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Philippine authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above mentioned Project.

As a result of the discussions, the Team and the Philippine authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Manila, Philippines, 17 October, 1980



Dr. Yoshinori Kaneko
Head of the Japanese
Implementing Survey Team
Japan International Cooperation
Agency, JAPAN



Dr. Antonio N. Acosta
Assistant Minister
Ministry of Health



Dr. Albert Romualdez, Jr.
Director
Institute for Tropical Medicine

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of the Philippines will cooperate with each other in implementing a Technical Cooperation Project for the Institute for Tropical Medicine (hereinafter referred to as "the Project"). The purpose of the Project is the strengthening of the capability of the Institute to develop widely applicable control measures against the major tropical diseases not only in the Republic of the Philippines but also in similarly situated countries to improve prevailing health conditions.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.
3. Both Governments may consider possibilities of cooperation in the future with third countries or international organizations to achieve the above-mentioned objectives should the need arise.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

Handwritten signatures and initials:
A large signature on the left, a smaller signature in the middle, and the initials "JK" on the right.

2. The Japanese experts referred to in 1 above and their families will be granted in the Republic of the Philippines the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries working in the Republic of the Philippines under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The articles referred to in 1 above will become the property of the Government of the Republic of the Philippines upon being delivered c.i.f. to the Philippine authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

IV. TRAINING OF PHILIPPINE PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Philippine

Al. Acera *D*

YK

personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

2. The Government of the Republic of the Philippines will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Philippine personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of the Philippines, the Government of the Republic of the Philippines will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Services of the Philippine counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV;
 - (2) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
 - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above;
 - (4) Transportation facilities and travel allowance for the Japanese experts for the official travel within the Republic of the Philippines;
 - (5) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.
2. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of the Philippines, the Government of the

St. Juan *R* *YK*

Republic of the Philippines will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation within the Republic of the Philippines of the articles referred to in III above as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges imposed in the Republic of the Philippines on the articles referred to in III above;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

VI. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Philippine staff associated with the Project pertaining to the implementation of the Project, and the Philippine authorities concerned will be responsible for the administrative and managerial matters pertaining to the Project.
2. For the successful implementation of the Project, the Coordinating Committee will be established with the members as listed in Annex VI.

The functions of the Committee are as follows:

- (1) To promulgate policy guidelines and procedures to be followed in the implementation of the Project.
- (2) To develop a 5 year plan for the implementation of the Project.
- (3) To review the implementation of the Project.
- (4) To advise the authorities concerned about the Project at all stages and all levels.

Handwritten signatures and initials:
A. [unclear] D. [unclear] YK

VII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of the Philippines undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of the Philippines except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

VIII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from or in connection with this Attached Document.

IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five years from the date of signature.

D

St. A.

YK

ANNEX I MASTER PLAN

1. Objective

The Project aims to contribute to the development of widely applicable control measures against major tropical diseases. In order to achieve this objective, the Project supports the research activities on major tropical diseases endemic in the Republic of the Philippines and other similarly situated countries, as well as develop the human resources pertaining to the research activities, and the application of their outputs.

2. Implementation

The Ministry of Health of the Government of the Republic of the Philippines has the responsibility for the implementation of the Project with the guidance of the Coordinating Committee. The Government of Japan will cooperate with the Government of the Republic of the Philippines in carrying out the Project through the dispatch of Japanese experts, acceptance of Philippine personnel for training in Japan and provision of equipment.

3. Activities will include the following:

3.1. Studies on epidemiology, microbiology, immunology, and control measures of communicable diseases.

(a) Diphtheria, Pertussis, Tetanus

1. Immunization
2. Microbiology
3. Epidemiology
4. Other aspects

Handwritten signatures and initials:
A. A. D YK

(b) Diarrheal Diseases

1. Microbiology
2. Host and Environmental factors
3. Treatment Modalities
4. Other aspects

(c) Other areas to be mutually agreed upon

3.2. Training of Health workers on Communicable Disease Control.

Ar. Ar *R*

YK

ANNEX II JAPANESE EXPERTS

Expert: (as required by project activities)
in public health
in microbiology
in epidemiology
in parasitology
in biochemistry
in pathology
in clinical medicine
in biomedical engineering
in experimental animals
in other related fields mutually agreed upon as
necessary

Note: One of the Japanese experts will be nominated
as a team leader.

Handwritten signature

YK

ANNEX III LIST OF THE ARTICLES

Machinery, equipment and others for the Project mutually
agreed upon as necessary.

J. K. *R*

JK

ANNEX IV LIST OF PHILIPPINE STAFF

1. Director of Institute for Tropical Medicine
 2. Researchers
 - (a) in public health
 - (b) in microbiology
 - (c) in epidemiology
 - (d) in parasitology
 - (e) in biochemistry
 - (f) in pathology
 3. Clinician
 4. Technologists (laboratory service, equipment maintenance and others)
 5. Administrative Personnel
 - (a) Secretary
 - (b) Clerks
 - (c) Typists
 - (d) Drivers
 - (e) Messengers
 - (f) Watchman
 - (g) Others
- Other personnel necessary for the implementation of the Project.

ANNEX V LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

The Government of the Republic of the Philippines offers enough land, buildings and facilities to the Project.

St. Juan *D* *YK*

ANNEX VI COMPOSITION OF THE COORDINATING COMMITTEE

Chairman: Assistant Minister, Philippine Ministry
of Health

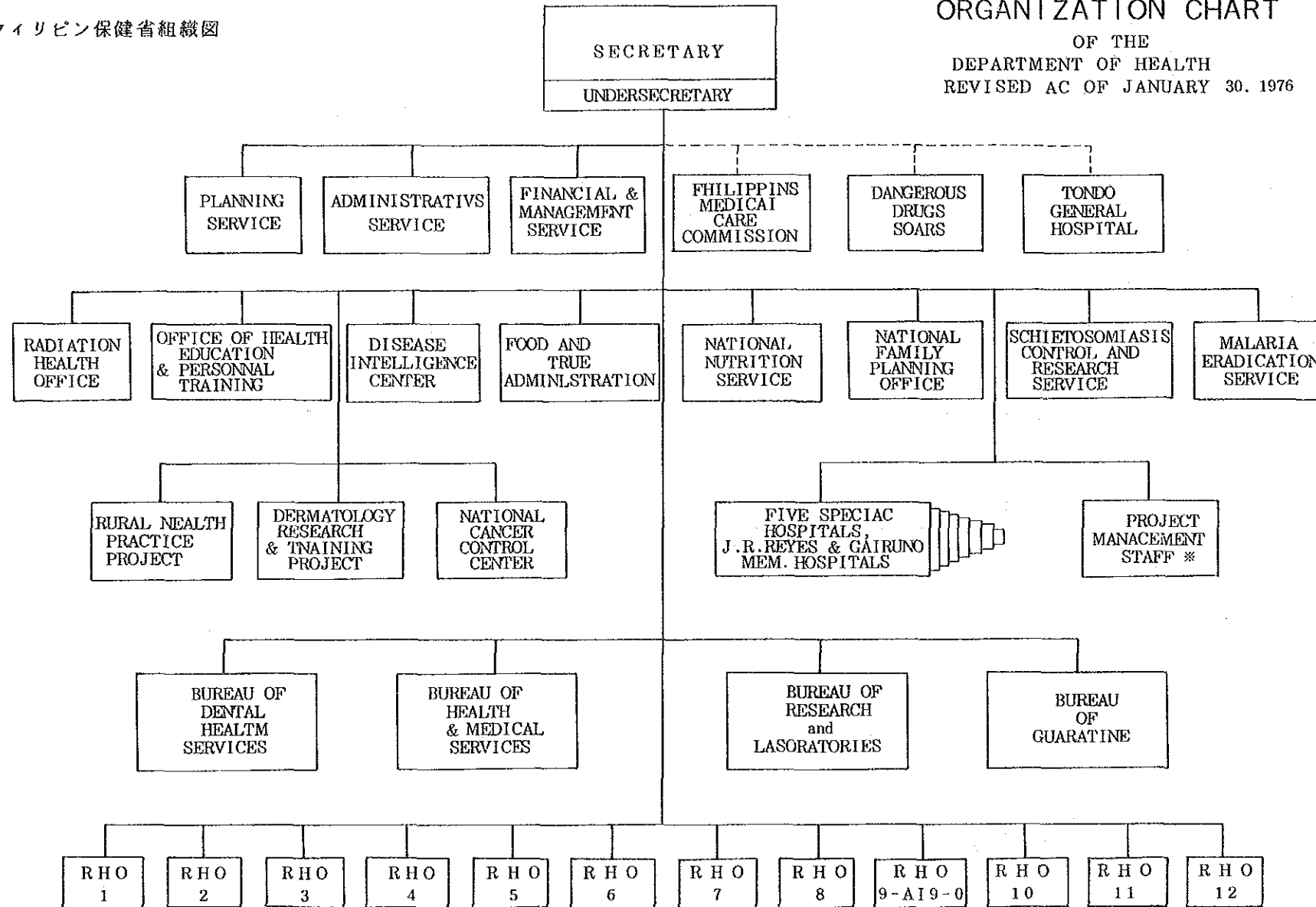
Philippine side	Japanese side
Director of the Institute for Tropical Medicine	Team Leader
Head of Research and Training Department	Representative of JICA
Head of Clinical Department	Expert
NEDA representative	Expert
NSDB representative	Expert

Note: An official of the Embassy of Japan
may attend the meetings of the
Coordinating Committee as observer.

At. An *D* *YK*

フィリピン保健省組織図

ORGANIZATION CHART
OF THE
DEPARTMENT OF HEALTH
REVISED AC OF JANUARY 30, 1976



* 5-YEAR PROJECT RHO=Regional Health Office

JICA